

令和3年度学校経営アクションプラン作成のための参考資料!

津山教育事務所 R3.3月

A P の実効性を高めるために!

各学校においては、来年度のA Pの作成が大詰めを迎えている頃ではないかと思えます。すでに岡山県教育委員会より作成に当たった資料(説明スライドと音声入り動画)が送付されており、確認していただいていると思えます。

今年度の取組状況を振り返ってみると、A Pが実効性のあるものになるかどうかは、やはり「達成目標の設定」及び「重点的取組の設定とその取組の指標や検証方法」をいかに検証改善サイクルを回すことができるように定量的に設定できるかにかかっていると言えます。

そこで、県教委資料の記入例をもとに、作成上のポイントを確認してみます。

達成目標の記入例

達成目標(※指標を必ず記入すること)

●課題解決型の授業を目指し、「自分の考えをもち、その考えを根拠や理由を示しながら発表することができる生徒」の割合を増やす。

【R3学校評価アンケート(R3年度12月)】

(問) 授業では、自分で課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいた。

教職員	肯定的回答	100%	←現状85.0%
生徒	肯定的回答	92.5%	←現状82.5%
保護者	肯定的回答	86.5%	←現状76.5%

現状分析の中に、R2年度学校評価アンケート等の現状が分かるデータを示す必要があります。既存のデータがない場合は4月にアンケートを実施し、目標指標の妥当性を確認しておく必要があります。記入例では、4月の現状値を示しています。

また、目標指標を肯定的回答の割合でみるのか、A評価「当てはまる」の割合でみるのかの検討も必要です。

小規模校の場合、割合で示すよりも人数等の実数で示す方が取組の成果を見取りやすい場合もあります。

小学校の記入例

重点的取組

全ての教科において、**各単元内**に「アウトプットを重視した**場**」を意図的に設定する。
対話：ペアトーク、グループ討議等
表現：手紙、新聞、プレゼンテーション等

取組指標・検証方法 第19号②

①学校評価アンケート（7、12月）と児童を対象とした②学習状況調査（5、11月）で確認する。

【問】授業中の学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えていたと思う。

①学校評価アンケート

教職員：**75%**（7月）→**100%**（12月）

取組指標と検証方法が色分けしてあります。「意図的に設定する」とは、具体的にどのように、どの程度設定することなのかを明確にしておく必要があります。また、「アウトプットを重視した場」の設定（進捗）状況を、だれがどのように確認するのも考えておかなければなりません。

中学校の記入例

重点的取組

5教科においては定期考査の問題に「根拠を基に、自分の考えを説明する問題」や「自分の考えを理由付けて説明する問題」を**最低1問は出題**する。

取組指標・検証方法

教科主任に教科会で検討した問題案及び正答例、予想得点率の3つをセットにしたものを、**テスト週間初日までに**管理職に提出させる。**考査終了後、採点結果及び教科会で検討したフォローアップ対策を1週間以内**に提出させる。

この取組の進捗状況を確認する仕組みが具体化されていますが、取組の効果や成果をどう検証するのも考えておく必要があります。また、この取組は5教科のみの取組になっていますが、他教科の担当教員がこの取組にどう関わっていくのかを明確にしたり、全教科で取り組むことのできる重点的取組を別に設定したりすることで、学校全体での組織的な取組になっていきます。